

論壇

利便性拡大に伴うリスク

フェイスブックの情報セキュリティ問題がまた起きた。世界の何千万人という人の情報が脅かされたということだ。アカウントの成りすましや、パスワードの読み取りなど、いろいろと厄介なことが起きる可能性があるという。この件について、いますぐに大騒ぎする必要はないだろうが、改めて利便性と社会的リスクの関係について考えさせられる事件ではあった。

フェイスブックのようなSNSが便利であるのは、それが多くの特定多数の人につながって

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

いるからだ。専門用語を使えば、これをネットワークの外部性と呼ぶ。より多くの人がつながるほど、そのネットワークの社会的な価値は高まる。このネットワークが今や世界中に広がり、日々膨大な情報が行き来している。そこにネットワークの価値とパワーがある。

このネットワークの価値とパワー

しかし、もしスーパーなどに大量に並んでいる冷凍食品などを食べて多くの人がおなかを壊せば、それは社会的な大事件である。場合によっては、その食品メーカーの経営問題にまで及ぶ可能性がある。だからこそ、不特定多数の消費者に商品を提供するメーカーは、最大限の注意を払って食の安全性を高めようとするだろうし、政府もさまざまな規制や監督を行っている。

こうしたネットワークを運営する企業に、リスクへの最大限の対応が求められることは言うまでもない。ただ、私たち一人一人のユーザーの姿勢も重要だ。スーパーで買った冷凍食品だからと言って無防備に食べるのではなく、食べる前に匂いを嗅ぐとか、味がおかしければ食べない、という最低限の防衛姿勢が必要だろう。ソーシャルメディアでも、おかしなことがいくらでも起きるのだから、このことを認識して利用することが必要となる。

規模の不経済

問題は、そのシステムに何か小さな問題が生じたとき、その被害も多くの人に広がるということだ。ほんのわずかな問題があっても、ハッカーはそこからシステムに侵入する。それでユーザーのパスワードなどが盗まれば、そこからさまざまな犯罪的行為が行われ、手料理を食べる。

規模が大きくなれば利便性も増えるが、リスクも高まる。当たり前のことではあるが、ソーシャルメディアのような世界では、その規模が並外れて大きいので、リスクの規模も大きくなる。それが

ユーザーに防衛姿勢必要

規模が大きくなれば利便性も増えるが、リスクも高まる。当たり前のことではあるが、ソーシャルメディアのような世界では、その規模が並外れて大きいので、リスクの規模も大きくなる。それが

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。